

# 26PB-am139

「未病」の認知と理解拡大を目指した教育広報活動充実への研究成果活用とその効果の検証

○秋山 晴代<sup>1</sup>, 鈴木 麻希<sup>1</sup>, 五十鈴川 和人<sup>2</sup>, 富田 基郎<sup>3</sup>, 甲斐 茂美<sup>1</sup>, 金 成俊<sup>2</sup>, 宮澤 眞紀<sup>1</sup> ( <sup>1</sup>神奈川衛研, <sup>2</sup>横浜薬大, <sup>3</sup>昭和大・薬)

【目的】神奈川県では超高齢社会の到来に備え、「未病」を健康と病気の間で連続的に変化している状態と定義し、「未病を改善する」という概念の普及を目的とした教育広報活動に努めている。神奈川衛研でも H27 年度より一般向けの未病出前講座を開催しており、「未病」の認知は広まりつつある。更なる拡大と「改善」の実践に向けた理解深化を目指し、平成 26-27 年度に実施した未病研究(第 136 年会発表)の成果を盛り込んで講座内容を充実化させ、高校等での若年層向け講義、リーフレット作成など多様な情報発信を行っている。本研究ではこれらの効果をアンケート調査で検証した。

【方法】未病講座の内容に、動物実験を主体とした未病に関与するターゲット因子探索研究や漢方薬の取扱い等の知見を新たに追加した。その内容で出前講座や公開セミナーを計 14 回実施し、横浜薬大で高校生を対象とした講義を行い、受講した延べ 444 人に対し 10 項目(性別、年齢、自身の健康状態、同居人数、未病についての理解、健康を維持するために心がけていたこと、講座を聞いて実践しようと思ったこと等)のアンケート調査を実施した。

【結果・考察】都市部と郡部 7 市 1 町(小田原市、座間市、茅ヶ崎市、横浜市、綾瀬市、川崎市、相模原市、葉山町)で回答を得た。10 代から 90 代以上の回答者の中で 60 代以上が全体の 56.8%を占めた。男女比は男性 26.8%、女性 73.2%だった。自身の健康状態に関して全体の 57.4%が「未病」と回答し、そのうち 37.8%が二人暮らしで最も多かった。「健康」と回答した人では 3 人以上で暮らしている割合が最も高かった(65.9%)。年代別で同居者数と健康状態に弱い相関が認められた。未病概念の理解や対策の実践に関する回答を詳細に分析し報告する。